

特別史跡

西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書 (XVII)



2015. 3

宮崎県教育委員会

例 言

1. 本書は文化庁の補助を受け、宮崎県教育委員会が実施した「西都原古墳群調査整備活性化事業」の平成 26 年度事業概要報告書である。
2. 発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、宮崎県立西都原考古博物館が実施した。
3. 発掘調査及び保存整備の実施地点は、下記のとおりである。
西都原 265 号墳：宮崎県西都市大字童子丸字新立 674 番・675 番（発掘調査）
西都原 100 号墳：宮崎県西都市大字三宅字東立野 4700 番 9（保存整備）
4. 本書の執筆・編集は、宮崎県立西都原考古博物館学芸普及担当主査 堀田孝博が担当した。
5. 発掘調査で出土した遺物は、同博物館にて保管している。

目 次

第 I 章 発掘調査及び整備の経緯	1
第 1 節 既往の整備事業	
第 2 節 西都原古墳群調査整備活性化事業	
第 II 章 西都原 265 号墳の発掘調査	2
第 III 章 西都原 100 号墳の保存整備	2

第1章 発掘調査及び整備の経緯

第1節 既往の整備事業

西都原古墳群は、1912（大正元）年から1917（同6）年にかけて、我が国最初の古墳の学術的・組織的調査が実施された後、1934（昭和9）年5月1日に国の史跡に、1952（昭和27）年3月29日には、特別史跡に指定された。後の追加指定を経て、現在の指定面積は、約58万㎡に及んでいる。そして、1966（昭和41）年から1969（同44）年まで、最初の『風土記の丘』として整備事業が行われ、以後、史跡公園としての環境維持や古墳の保護が図られてきた。

その状況を踏まえた上で、宮崎県教育委員会では「史跡の保護」に加えて「活用」という観点から1993・1994（平成5・6）年度に「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設置し、1994年度末に『西都原古墳群保存整備基本計画』をまとめ、それに基づき1995（同7）年度より新たな整備事業に着手している。

1995（平成7）年度から2002（同14）年度にかけては文化庁の補助事業である「大規模遺跡総合整備事業」（1997（同9）年度より「地方拠点史跡等総合整備事業」）を活用し、発掘調査の成果を基にした古墳の復元整備工事や環境整備、見学施設の建設、土地公有化などが行われた。

その後、2003（平成15）年度から2007（同19）年度には「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」の事業名で、46号墳の発掘調査や111号墳の墳丘復元工事などを実施し、2008（同20）年から2013（同25）年度には「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」の事業名で、46・47・201・202・284号墳の発掘調査や46・47・202号墳の墳丘復元工事などを実施した。

第2節 西都原古墳群調査整備活性化事業

宮崎県教育委員会では、2013（平成25）年度に前述の『西都原古墳群保存整備基本計画』を上位計画と位置づけた上で、新たな整備実施計画を策定し、2014（同26）年度より標記事業に着手している。

当該事業は、西都原古墳群における発掘調査・保存整備が果たした学術的・文化的・社会的役割を踏まえつつ、古墳群を保存・継承していこうとする機運の醸成、歴史と文化を活かした魅力あるまちづくりなど地域の活性化を促進するもので、発掘調査や調査終了古墳の保存整備のほか、これまでに整備が終了した古墳の再整備なども計画している。

2015（平成26）年度は265号墳の発掘調査を実施し、墳丘の規模や構造、周溝の有無や形状等の確認を行うとともに、1917（大正6）年の発掘調査（第6次調査、以下では大正調査とする）における調査坑の位置や規模を確認した。また地中レーダー探査の結果等から推定されていた左くびれ部の造り出しについても、規模や構造を確認した。また2001（平成13）年度～2002（同14）年度に葺石を露出した形での整備を実施した100号墳について、保存に軸足を移した再整備として後円部の盛土・芝張りを実施した（第1図）。

第Ⅱ章 西都原 265 号墳の発掘調査

265 号墳は「船塚」の通称で知られており、西都原台地最北端のグループである第 3 支群に位置する唯一の前方後円墳である。同支群は 265 号墳の他に 85 基の円墳が現存するほか、確認調査で 2 基の消滅円墳が確認され、さらに地中レーダー探査の結果から 5 基程度の消滅円墳と 29 基の地下式横穴墓の存在が推定されている。265 号墳の南方約 300 m の位置にある 111 号墳は、短甲 3 領など豊富な副葬品が出土した 4 号地下式横穴墓を主体部としており、墳頂部で確認された 3 基の埋葬主体部のうち 1 基からも挂甲 1 領や多数のガラス玉などが出土した。また 111 号墳の西に隣接する 115 号墳も、大正時代の鳥居龍蔵による発掘調査（第 2 次調査）において刀剣や鉄鏃とともに短甲 1 領が出土しており、古墳時代中期後半から後期初頭頃にかけて重要な位置を占める一群である。

大正調査では、後円部墳頂から変形十字文鏡 1、碧玉製管玉 19、鉄刀 3、鉄銚 1、刀子 2、鉄鏃多数が出土しているが、明確な埋葬主体部は検出されなかった。ただし、報告書に掲載されている副葬品の配置状況から、埋葬施設は木棺直葬であった可能性が高い。これら出土遺物の内容および墳形等から、西都原古墳群内で 2 基しかないと言われる後期古墳の一つとして理解されてきたが、近年、地中レーダー探査の結果等から、左くびれ部における造り出しの存在が想定され、築造時期が中期に遡る可能性が出てきている。また大正調査の報告書では周溝が存在しないとされるが、現況では古墳の周囲が僅かに窪んでおり、周溝の存在を想定させる。

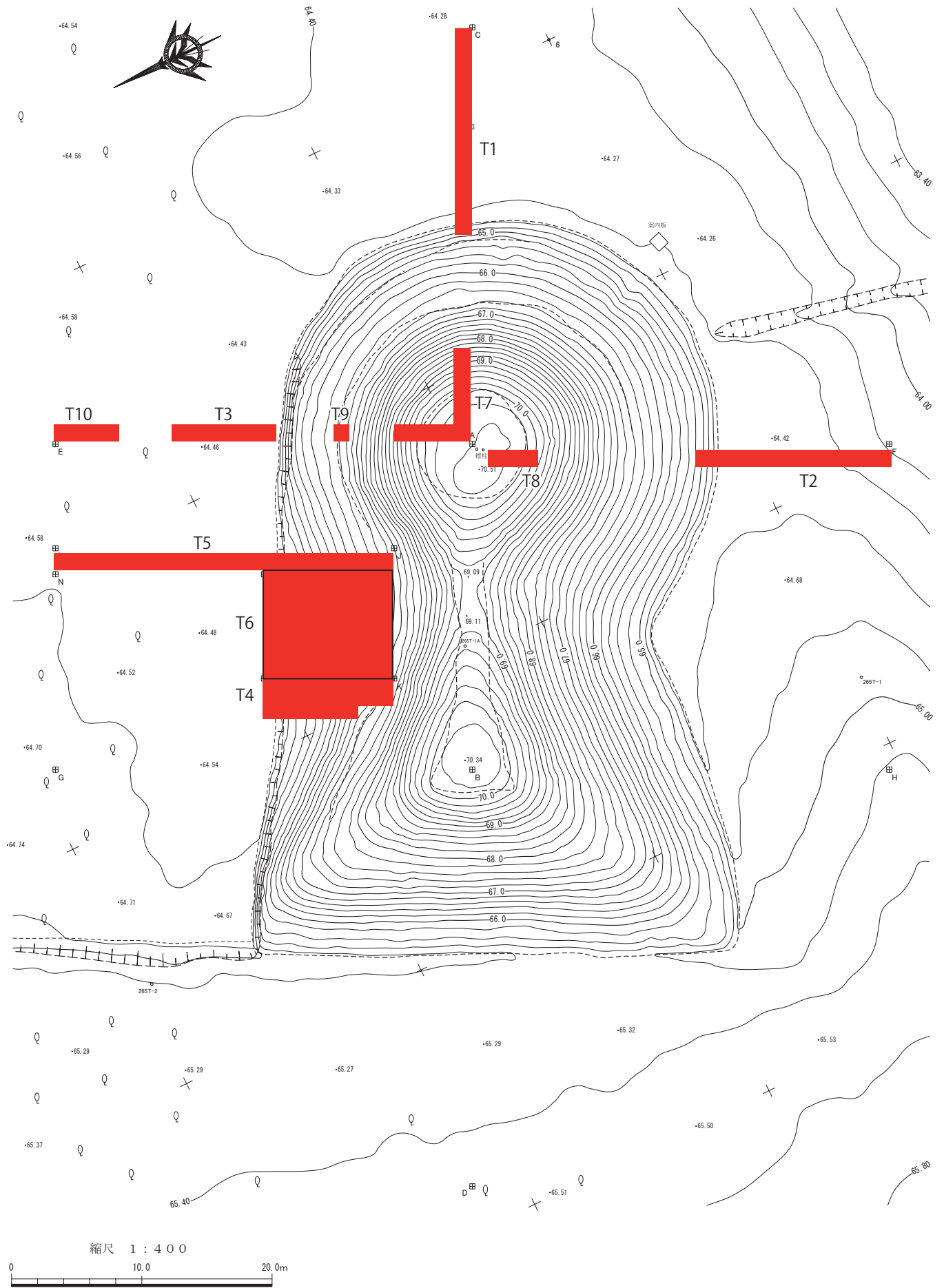
2014（平成 26）年度の調査では、主として後円部における墳丘の規模や構造、周溝の有無や形状等の確認を行うとともに、大正調査坑の位置や規模を把握するため、墳丘の主軸およびそれに直行する方向でトレンチを設定した（トレンチ 1～3、7～10）。また左くびれ部には、造り出しの有無や規模、構造を確認するためのトレンチを設定した（トレンチ 4～6）。各トレンチについて掘り下げを行った結果、墳丘一段目・二段目ともに葺石が残存することを確認した。また墳丘の東側から北側にかけて周溝が存在することも判明した（南側は攪乱の影響で、現時点では未確定）。墳頂部では、大正調査坑についてプランを検出し、精査の過程で碧玉製管玉 1 点が出土した。また、左くびれ部では造り出しの存在が確認できた。造り出しは先端部が後世の攪乱で破壊されているが、残存状態は良好である。造り出しの側面にも葺石がめぐっており、上面では数は少ないが土師器高杯等の破片が出土した。

第Ⅲ章 西都原 100 号墳の保存整備

100 号墳は第 2 支群の北東隅に位置する前方後円墳で、1998～2000（平成 10～12）年度に発掘調査を実施した。墳丘斜面部の全面に葺石が施されており、その遺存状況は全国の前期古墳の中でも際だって良好であることから、葺石を露出する形での整備・公開を実施し、古墳本来の姿を理解できる整備の一例を示した。整備施工後 10 年が経過し、所期の目的は概ね達成できたと判断したため、盛土・芝張りによる保存に軸足を移した再整備を行うこととなった。2014（平成 26）年度には後円部の工事を実施し、前方部および周溝については 2015（同 27）年度に工事を予定している。



第1図 発掘調査・復元整備古墳の位置図



第2図 西都原 265号墳トレンチ配置図 (S = 1/400)

写真1 トレンチ1全景（東から）

墳裾に葺石が残存する。周溝は浅く、現地表下約50cmで底面に達する。周溝は幅約9.2mで緩やかに立ち上がる。鬼界アカホヤ火山灰の残存範囲が約2.8mで途切れ、その外方は再び落ち込むようであるが、その性格は今後の調査で確定する必要がある。



写真2 トレンチ2全景（南から）

墳裾に葺石が残存する。地山は全面的に霧島小林軽石を含む暗褐色土であり、他のトレンチと様相が異なる。墳裾から幅約7mが周溝状に落ち込むが、埋土の状況からは古墳本来のものではなく、新しい時代の攪乱と考えざるを得ない。



写真3 トレンチ3葺石検出状況 （北から）

墳裾に葺石が残存するが状態は良くない。周溝はトレンチ1と異なり、最深部では現地表下約90cmで底面となる。





写真4 トレンチ4～6造り出し全景
(北西から)

後世の攪乱で先端部が欠損しているが、残存状態は良好である。先端部で鬼界アカホヤ火山灰の堆積が確認できたため、削り出した地山をベースとして盛土・葺石が施されていることが判明した。



写真5 トレンチ4～6造り出し付近
葺石検出状況①(北から)

くびれ部の屈曲はかなり緩やかであり、造り出しはやや前方部寄りに位置する。この付近の基底石は他の箇所と異なり、大ぶりの石材を横使いしている。

一方、二段目の基底石は縦向きに埋め込まれている



写真6 トレンチ4～6造り出し付近
葺石検出状況②(北から)

造り出しはテラス面よりやや下がった部分に取り付く。接続部では造り出しの上面にも基底石が並んでいる。

**写真7 トレンチ7大正調査坑検出
状況（北西から）**

表土直下で鬼界アカホヤ火山灰のブロックをやや多く含む堆積土が確認され、精査の結果、大正調査坑の埋め戻し土と判断した。トレンチ手前の壁際で碧玉製管玉が出土している。



**写真8 トレンチ7碧玉製管玉出土
状況（東から）**

表土直下で出土した。大正調査で出土した管玉19点と一連のものである可能性が高い。穿孔は片面から施されている。



**写真9 トレンチ7葺石検出状況
（南東から）**

後円部墳頂から約1.9 m低いところで二段目葺石の残存を確認した。今後、他の部分でも残存状況を確認する必要がある。





写真10 トレンチ9 葺石検出状況
(北から)

後円部二段目基底石、区画列石の一部を確認した。葺石の密度は低く、まばらに埋め込まれている状態である。墳丘は基底石付近ではかなり緩やかになっており、傾斜は一定ではない。



写真11 トレンチ10 調査状況(南から)

トレンチ1と同様に鬼界アカホヤ火山灰の残存範囲が途切れ、その外方は再び落ち込んでいく状況が確認されている。



写真12 100号墳の保存整備状況
(南西から)

2014(平成26)年度は後円部の盛土・芝張りを実施した。

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき さいとばるこふんぐん はつくつちょうさ・ほぞんせいびがいようほうこくしよ							
書名	特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書							
副書名								
巻次	XVII							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	堀田孝博							
発行機関	宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）							
所在地	〒 880-0805 宮崎県宮崎市橘通東 1 丁目 9 番 10 号 (〒 881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西 5670)							
発行年月日	2015（平成 27）年 3 月 31 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
さいとばる 265 号墳	さいとしおおあざどうじまるあざしんたて 西都市大字童子丸 字新立 674 番・675 番	45208				2014. 11. 05 ~ 2015. 03. 31	225 m ²	史跡整備関連
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	古墳	古墳	前方後円墳（葺石・周溝）	土師器・須恵器・管玉 縄文土器・石鏃・石錘・陶磁器		左くびれ部に造り出しを確認		

特別史跡 **西都原古墳群** 発掘調査・保存整備概要報告書（XVII）

2015（平成 27）年 3 月 31 日

発行 宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）

〒 880-0805 宮崎県宮崎市橘通東 1 丁目 9 番 10 号

（〒 881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西 5670）

印刷 宮崎紙工印刷(株)

〒 880-0921 宮崎県宮崎市本郷南方 4045 番地 4